

Ⅲ 救急・救助

余 白

第1 救急活動の概況

1 救急業務実施体制

平成25年4月1日において救急業務を実施している市町村は41市町村で、県人口の99.9%がカバーされている。

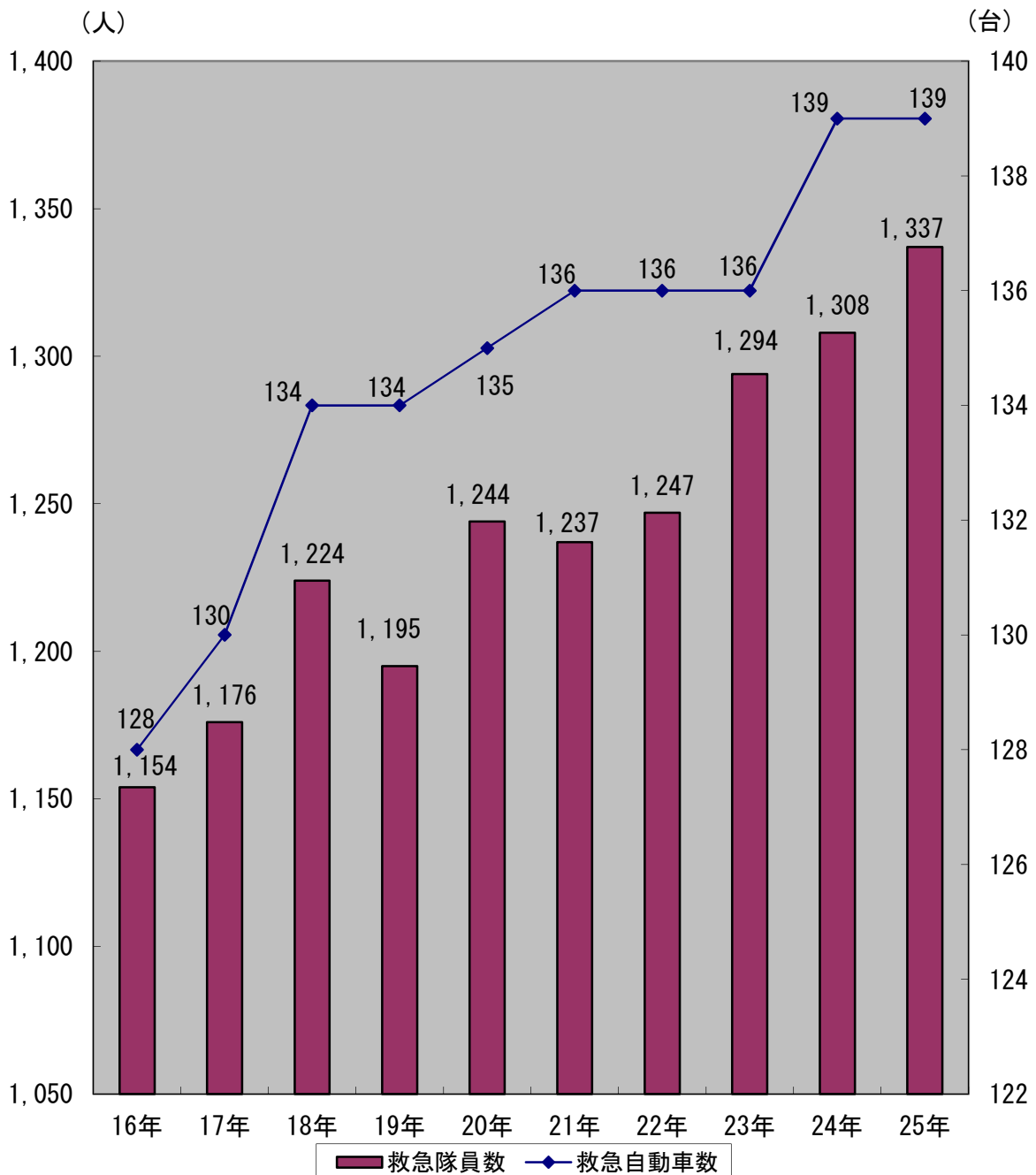
救急自動車の保有台数は139台、救急隊員は1,337人（専任327人、兼任1010人）で、前年に比べ救急隊員は29人増加している。また、救急告示医療機関は93機関、その他医療機関は1,522機関となっている。

平成3年8月にプレホスピタル・ケア充実の一環として、救急隊員の行う応急処置の範囲が拡大されるとともに、高度な応急処置を行うための新たな国家資格制度として救急救命士制度が導入され、救命率の向上を目指した救急業務の高度化が推進されている。

平成25年4月1日現在、県内全消防本部で救急救命士を運用（一部運用を含む）しており、資格者合計466名のうち436名が救急業務に従事している。

図-1 過去10年間の救急自動車及び救急隊員数の推移

(各年4月1日現在)



2 救急業務実施状況

(1) 概要

平成24年中における救急出動件数は75,327件、搬送人員は69,677人で、いずれも過去最多となった。

また、これを昨年と比べると救急出動件数は2,258件（3.1%）の増加、搬送人員は1,663人（2.4%）の増加となっている。

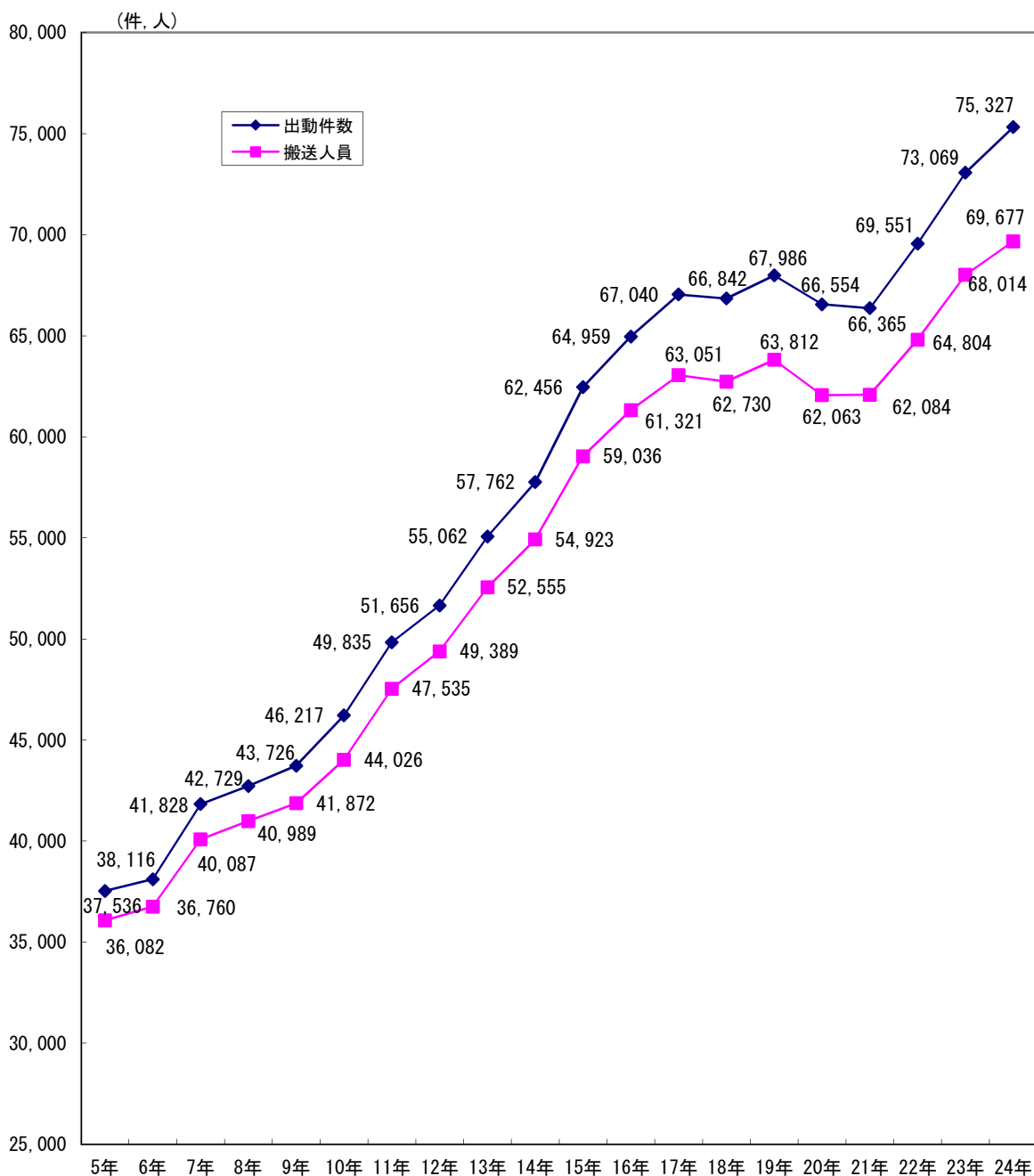
これは、1日平均206.4件（前年200.2件）、約7.0分に1回の割合で救急隊が出動し、また1日平均190.9人（前年186.3人）、約7.5分に1人、約24人に1人の割合で搬送されている。

事故種別救急出動件数は、前年と同じく1位が急病で43,753件（全体の58.1%）、次いで一般負傷9,887件（同13.1%）、交通事故が6,342件（同8.4%）となっている。

なお、搬送人員については、救急出動件数と同様、1位が急病で40,142人（全体の57.6%）、次いで一般負傷が9,247人（同13.3%）、交通事故が6,372人（同9.1%）となり、上位3位までで全体の80.0%を占めている。

過去20年間の県内救急活動の推移は下図のとおりであり、これまで増加の一途をたどっていた搬送人員・出動件数は、平成17年からほぼ横ばいとなっていたが、平成22年から再び増加に転じている。

図-2 過去20年間の救急出動件数、搬送人員の推移



(2) 事故種別、傷病程度別及び年齢区分別搬送人員の状況

表-1 事故種別出動件数及び搬送人員の状況

(単位：件，人，%)

区分	計	構成比	急病	構成比	交通事故	構成比	一般負傷	構成比	その他	構成比	
平成24年	出動件数	75,327	100.0	43,753	58.1	6,342	8.4	9,887	13.1	15,345	20.4
	搬送人員	69,677	100.0	40,142	57.6	6,372	9.1	9,247	13.3	13,916	20.0
平成23年	出動件数	73,069	100.0	42,448	58.1	6,375	8.7	9,455	12.9	14,791	20.2
	搬送人員	68,014	100.0	39,085	57.5	6,485	9.5	8,869	13.0	13,575	20.0
増減	出動件数	2,258	—	1,305	—	△ 33	—	432	—	554	—
	搬送人員	1,663	—	1,057	—	△ 113	—	378	—	341	—

(注) その他は、火災・自然災害・水難・労働災害・運動競技・加害・自損行為・その他(転院搬送・医師搬送・資機材等搬送・その他)を示す。

ア 年齢別搬送人員

搬送人員の年齢別事故種別をみると、高齢者、成人、乳幼児では、急病が半数を超える高い率を占めており、少年では交通事故が比較的高い比率を占めている。

表-2 年齢別搬送人員の状況

(単位：人，%)

区分	計	構成比	急病	構成比	交通事故	構成比	一般負傷	構成比	その他	構成比
新生児	153	100.0	13	8.5	1	0.7	9	5.9	130	85.0
乳幼児	2,702	100.0	1,661	61.5	185	6.8	580	21.5	276	10.2
少年	2,468	100.0	846	34.3	734	29.7	326	13.2	562	22.8
成人	23,350	100.0	12,608	54.0	3,915	16.8	2,106	9.0	4,721	20.2
高齢者	41,004	100.0	25,014	61.0	1,537	3.7	6,226	15.2	8,227	20.1
計	69,677	100.0	40,142	57.6	6,372	9.1	9,247	13.3	13,916	20.0

(注) 新生児：生後28日未満の者

乳幼児：生後28日以上満7歳未満の者

少年：満7歳以上満18歳未満の者

成人：満18歳以上満65歳未満の者

高齢者：満65歳以上の者

(注) その他は、火災・自然災害・水難・労働災害・運動競技・加害・自損行為・その他(転院搬送・医師搬送・資機材等搬送・その他)を示す。

イ 傷病程度別搬送人員

平成24年中における搬送人員は69,677人であるが、これを傷病程度別にみると、軽症、中等症の両者で全体の84.8%を占めている。

表-3 傷病程度別搬送人員の状況（事故種別）

（単位：人，％）

区 分	合計		死亡	重症		中等症		軽症		その他		
	合計	構成比		構成比	構成比	構成比	構成比	構成比	構成比			
火災	83	100.0		15	18.1	39	47.0	29	34.9			
自然災害	3	100.0	1	33.3				2	66.7			
水難	74	100.0	11	14.9	24	32.4	23	31.1	16	21.6		
交通事故	6,372	100.0	27	0.4	386	6.1	1,671	26.2	4,288	67.3		
労働災害	529	100.0	6	1.1	101	19.1	261	49.3	161	30.4		
運動競技	500	100.0			25	5.0	170	34.0	305	61.0		
一般負傷	9,247	100.0	36	0.4	1,181	12.8	3,895	42.1	4,132	44.7	3	0.0
加害	256	100.0			6	2.3	70	27.3	180	70.3		
自損行為	580	100.0	39	6.7	114	19.7	262	45.2	165	28.4		
急病	40,142	100.0	521	1.3	4,067	10.1	20,485	51.0	15,060	37.5	9	0.0
その他	11,891	100.0	13	0.1	3,936	33.1	7,464	62.8	408	3.4	70	0.6
計	69,677	100.0	654	0.9	9,855	14.1	34,340	49.3	24,746	35.5	82	0.1

※ 死 亡：初診時において、死亡が確認されたもの
 重 症：傷病の程度が3週間以上の入院加療を必要とするもの
 中等症：傷病の程度が入院を必要とするもので重症に至らないもの
 軽 症：傷病の程度が入院を必要としないもの
 その他：医師の診断がないもの及び「その他の場所」へ搬送したもの

また、年齢別にみると、新生児、高齢者の場合は中等症の割合が高いのに対し、乳幼児、少年、成人の場合は、軽症の比率が高くなっている。

表-4 傷病程度別搬送人員の状況（年齢別区分）

（単位：人，％）

区 分	合計		死亡	重症		中等症		軽症		その他		
	合計	構成比		構成比	構成比	構成比	構成比	構成比	構成比			
新生児	153	100.0		47	30.7	86	56.2	16	10.5	4	2.6	
乳幼児	2,702	100.0	6	0.2	105	3.9	626	23.2	1,960	72.5	5	0.2
少年	2,468	100.0	3	0.1	104	4.2	758	30.7	1,601	64.9	2	0.1
成人	23,350	100.0	122	0.5	2,364	10.1	10,087	43.2	10,746	46.0	31	0.1
高齢者	41,004	100.0	523	1.3	7,235	17.6	22,783	55.6	10,423	25.4	40	0.1
計	69,677	100.0	654	0.9	9,855	14.1	34,340	49.3	24,746	35.5	82	0.1

- (3) 現場到着所要時間及び収容所要時間の状況
 平成24年中の救急出動件数75,327件について現場到着所要時間別（救急事故の覚知から現場に到着するまでに要した時間別）の状況を示したものが下表である。
 これによると最も多いのは、5分以上～10分未満の40,241件で全体の53.4%を占めている。

表-5 現場到着時間別出場件数

区分	計	3分未満	3分以上 5分未満	5分以上 10分未満	10分以上 20分未満	20分以上	現場到着平均 所要時間	
							県	全国
急病	43,753	1,183	6,490	23,915	11,251	914	8.1分	—
交通事故	6,342	206	1,119	3,363	1,507	147	7.8分	—
一般負傷	9,887	290	1,541	5,412	2,437	207	8.0分	—
その他	15,345	934	4,386	7,551	2,257	217	6.6分	—
計	75,327	2,613	13,536	40,241	17,452	1,485	7.7分	8.3分
構成比	100.0%	3.5%	18.0%	53.4%	23.2%	2.0%	—	—

平成24年中の搬送人員69,677人について、収容所要時間別（救急事故の覚知から医療機関に収容するまでに要した時間別）の状況を示したものが下表である。
 これによると搬送人員のうち38,994人（55.9%）が収容に30分以上要している。

表-6 収容所要時間搬送人員

区分	計	10分未満	10分以上 20分未満	20分以上 30分未満	30分以上 60分未満	60分以上 120分未満	120分 以上	収容平均 所要時間	
								県	全国
急病	40,142	36	3961	13,133	20,556	2,395	61	34.7分	—
交通事故	6,372	10	607	2,094	3,246	403	12	34.7分	—
一般負傷	9,247	17	906	2,850	4,836	613	25	35.5分	—
その他	13,916	31	2783	4,255	5,276	1,493	78	35.2分	—
計	69,677	94	8,257	22,332	33,914	4,904	176	34.9分	38.7分
構成比	100.0%	0.1%	11.9%	32.1%	48.7%	7.0%	0.3%	—	—

搬送人員69,677人のうち99.2%は、転送なしで収容されているが、0.8%（556人）にあたる人は転送されている。

そのうち、転送回数1回の者が転送者全体の98.4%を占めている。

表-7 転送回数別搬送人員の状況

区分	計	急病	交通事故	一般負傷	その他	
転送なし	69,121	39,770	6,320	9,159	13,872	
転送	1回	547	366	50	87	44
	2回	9	6	2	1	
	3回					
	4回					
	5回以上					
	小計 (A)	556	372	52	88	44
計 (B)	69,677	40,142	6,372	9,247	13,916	
転送率 (A)/(B) × 100	0.8	0.9	0.8	1.0	0.3	

転送理由についてみると、救急告示医療機関、非告示医療機関ともに処置困難が多く、次いで専門外、ベッド満床の順になっている。

表-8 医療機関転送理由の状況

(単位：件、%)

区分	合計	ベッド満床	専門外	医師不在	手術中	処置困難	理由不明	その他
救急告示	構成比	100.0	1.6	31.6	0.5	0.5	45.5	20.3
		187	3	59	1	1	85	38
非告示	構成比	100.0	1.9	32.2		0.3	48.8	16.8
		363	7	117		1	177	61
計	構成比	100.0	1.8	32.0	0.2	0.4	47.6	18.0
		550	10	176	1	2	262	99

(5) 救急隊員の行った応急処置の状況

平成24年中に転送された人員のうち、救急隊員によって応急処置された人の事故種別、処置項目状況をみると、急病においては、血中酸素飽和度の測定が最も多く、次いで血圧測定が多い。

また、交通事故、一般負傷においても、血中酸素飽和度の測定・血圧測定の順で処置が多くなっている。

表-9 救急隊員の行った応急処置の状況

(単位:人)

処置項目	事故種別	計	急病	交通事故	一般負傷	その他				
	応急処置対象 搬送人員	68,269	39,940	6,244	9,099	12,986				
止	血	1,749	188	372	972	217				
固	定	5,221	160	3,130	1,345	586				
人	工	呼	吸	364	251	10	31	72		
心	マ	ッ	サ	ー	ジ	119	81	4	12	22
心	肺	蘇	生	1,755	1,349	55	164	187		
酸	素	吸	入	16,097	10,165	584	726	4,622		
気	道	確	保	2,583	1,943	80	223	337		
(再掲)気道確保のうち気管挿管		191	124	2	52	13				
保	温	3,400	2,284	172	416	528				
被	覆	3,889	158	1,303	2,000	428				
在	宅	療	法	継	続	165	145	1	9	10
ショックパンツによる血圧保持		2	1			1				
除	細	動	207	175	8	12	12			
静脈路確保(輸液)		311	245	5	36	25				
薬	剤	投	与	72	53	1	12	6		
血	圧	測	定	62,440	37,142	5,970	8,401	10,927		
聴診器による心音・呼吸音等の聴取		9,753	6,909	976	913	955				
血中酸素飽和度の測定		65,569	38,499	6,098	8,734	12,238				
心	電	図	22,149	17,082	705	1,339	3,023			
その他の応急処置		26,506	18,852	1,432	2,888	3,334				
計(再掲の気管挿管を除く)		222,351	135,682	20,906	28,233	37,530				

(注) 一人につき複数の応急処置を行うこともあるため、応急処置対象搬送人員と事故種別ごとの処置項目の計の数は一致しない。

(6) 高速道路における救急業務の状況

高速自動車国道における救急業務実施体制は、平成25年4月1日現在、九州縦貫自動車道のうち鹿児島インターチェンジから宮崎インターチェンジ並びにえびのインターチェンジから人吉インターチェンジまでを沿線3市1組合で、相互応援協定を締結し、上下線方式により、第1次出場をインターチェンジ所在の常備消防が担当する体制を整えている。東九州自動車道31.7kmは沿線1市1組合が担当している。

県内においては、上り線が鹿児島インターチェンジから宮崎県えびのインターチェンジまでの69.8kmについて、第1次出場を担当し、救急業務を行っている。

なお、平成24年中の本県における救急活動は、下表のとおりである。

高速自動車道における救急活動状況

表-10 九州自動車道

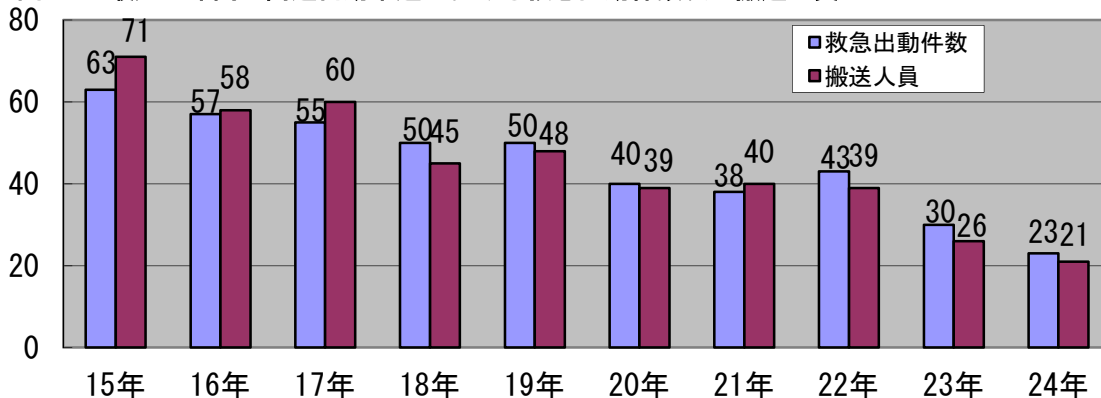
区 分	インターチェンジ名 (I C)	救急出動件数	搬送人員	救急告示 医療機関数	高速道路に おける救急活動 開始年月日
鹿児島市消防局	鹿児島			24	昭和63.3.29
	鹿児島北			3	昭和52.11.15
	薩摩吉田	10	8		昭和48.12.13
始良市消防本部	始良	2	2	1	昭和48.12.13
	加治木	5	4	1	昭和48.12.13
霧島市消防局	溝辺鹿児島空港	3	3		平成17.11.7
	横川	1	1		平成17.11.7
伊佐湧水消防組合	栗野	2	3		昭和55.3.22
計	8 I C	23	21	29	

(注) 医療機関は、インターチェンジから半径5キロメートルの範囲にあるものである。

表-11 東九州自動車道

区 分	インターチェンジ名 (I C)	救急出動件数	搬送人員	救急告示 医療機関数	高速道路に おける救急活動 開始年月日
霧島市消防局	国分	5	5	3	平成14.3.2
	隼人東	1	1	1	平成12.3.4
大隅曾於地区消防組合	末吉財部	2			平成14.5.9
計	3 I C	8	6	4	

図-3 最近10年間の高速自動車道における救急出動件数及び搬送人員



3 プレホスピタル・ケアの充実

プレホスピタル・ケア（救急現場及び搬送途上における応急処置）の一層の充実を図るために、平成3年8月に「救急隊員の行う応急処置等の基準」が改正され、これに伴い消防学校における新たな教育訓練（救急標準課程（平成16年4月1日より救急科に改称）及び救急Ⅱ課程）の修了者は、従来の応急処置に加えて9項目の処置を行うものとされ、救急救命士資格者は、医師の指示の下にさらに高度な応急処置（特定3項目）をも行うものとされた。

これに伴い、消防学校における救急科（救急標準課程）の修了者が計画的に養成されるとともに、救急救命士についても県内全消防本部において運用され、資格者、高規格救急自動車のいずれも着実に増加している。また、救急救命士の質の向上による救命効果を高めるため、平成15年2月に消防機関、救急医療機関、医師会などにより構成される鹿児島県救急業務高度化協議会を、同年3月に6地域（薩摩、北薩、始良伊佐、大隅、熊毛、大島）に地域救急業務高度化協議会を設置し、本県における救急業務の高度化について協議を行い、平成15年4月から包括的除細動を実施し、平成16年7月から認められた医師の具体的指示下での気管挿管についても救急業務高度化協議会で承認された病院で、体制の整った消防本部から順次病院実習を実施し、280名が認定を受け19消防本部で実施が可能となっている。また、平成18年4月から認められた医師の具体的指示下での薬剤投与についても383名が認定・登録を受け、20消防本部で実施が可能となっている。

さらに、救急現場近くの一般市民による応急手当を促進するため、平成24年12月末までに応急手当指導員2,119名、応急手当普及員366名が県内消防本部により養成され、住民に対する応急手当講習会が次のとおり実施されている。なお、平成16年12月に応急手当の普及啓発活動の推進に関する実施要綱の一部改正により、非医療従事者による自動体外式除細動器（AED）の使用が可能となったことから、AEDの内容を含めた救命講習の実施率が高くなっている。

平成24年中の住民に対する応急手当講習会実施状況

普通救命講習	1,067回	15,711名	受講
上級救命講習	15回	239名	受講
その他の講習	2,714回	53,774名	受講
計	3,796回	69,724名	受講

表-12 救急業務高度化の推進状況

各年4月1日現在

区分	平成24年	平成23年	対前年比較	
			増減数	増減率
救急救命士運用消防本部数	20	19	1	1.05
救急隊員数①	1,337	1,308	29	1.02
うち救急救命士有資格者②	436	392	44	1.11
(②/①:%)	(32.6%)	(30.0%)		
(②のうち気管挿管認定者)	249	222	27	1.12
(②のうち薬剤投与認定者)	363	301	62	1.21
うち救急科（救急標準課程）・救急Ⅱ課程修了者③	876	883	△7	0.99
(③/①:%)	(65.5%)	(67.5%)		
救急自動車数④	139	139		1.00
うち高規格車⑤	87	76	11	1.14
(⑤/④:%)	(62.6%)	(54.7%)		
救急隊数⑥	107	106	1	1.01
うち救急救命士運用隊⑦	96	93	3	1.03
(⑦/⑥:%)	(89.7%)	(87.7%)		

※1 救急救命士については、上記436名の外、救急自動車に乗車しない資格者が30名いる。（有資格者は、466名）

表-13 救急業務実施体制等の状況（消防本部設置市町村）

区分 消防本部別	人口 (人) H22年 国調	面積 (km ²) H22. 10. 1 国地院	救 急 体 制										
			救急車総数 (台)		救急 隊数	救急 救命 士 運用 隊数 ※2	救急隊員数 (人)						
			うち 高 規 格	うち 予 備 車			計	うち資格者・修了者			専任	兼任	
					救急 救命 士	標準 課程		救急 Ⅱ 課程					
鹿児島市消防局	605,846	547.07	20	13	5	15	12	147	61	67	17	84	63
枕崎市消防本部	23,638	74.88	3	2	1	2	2	29	8	12	9	8	21
出水市消防本部	57,907	330.06	4	3	1	3	3	47	18	18	4	16	31
垂水市消防本部	17,248	162.03	3	1	1	2	1	41	8	26	7		41
薩摩川内市消防局	99,589	683.50	9	4	2	7	5	84	31	37	13	29	55
日置市消防本部	50,822	253.06	4	3	1	3	3	39	13	18	6	13	26
霧島市消防局	127,487	603.68	8	6		8	8	85	32	49	3	32	53
いちき串木野市 消防本部	31,144	112.04	3	3	1	2	2	37	10	18	7		37
南さつま市消防本部	38,704	283.37	5	3		5	5	67	16	41	10	16	51
始良市消防本部	74,840	231.31	5	3	2	3	3	64	18	36	8	43	21
さつま町消防本部	24,109	303.43	3	3	1	2	2	28	10	13	5	8	20
指宿南九州消防組合	83,461	506.86	9	6	1	8	8	97	32	60	5		97
阿久根地区消防組合	34,259	250.55	6	3	2	4	3	54	11	30	13		54
伊佐湧水消防組合	40,899	536.69	6	3	1	5	3	61	16	28	17		61
大隅曾於地区消防組合	86,435	781.22	9	8	2	7	7	64	35	24	5	40	24
大隅肝属地区消防組合	146,685	1,160.92	11	7	1	10	10	100	35	56	4	31	69
沖永良部与論地区 広域事務組合	19,018	114.15	4	2	2	2	2	31	10	11	10		31
徳之島地区消防組合	25,591	247.91	4	1	1	3	3	44	8	16	20		44
熊毛地区消防組合	45,454	994.96	10	6	4	6	6	93	32	24	37		93
大島地区消防組合	73,939	878.34	13	7	3	10	8	125	32	53	39	7	118
計	1,707,075	9,056.03	139	87	32	107	96	1,337	※1 436	637	239	327	1,010

※1 救急救命士については、上記436名の外、救急自動車に乗車しない資格者が30名いる。
(有資格者は、466名)

※2 救急救命士運用隊数は、一部運用も含む。

[現場到着平均所要時間及び収容平均所要時間は平成24年中、左記以外は平成25年4月1日現在]

医療機関数 (件)											人口 10万人 当たりの救急 医療機関数	現場 到着 平均 所要 時間 (分)	収容 平均 所要 時間 (分)
合計	救急告示医療機関					その他の医療機関							
	国 公 立	公 的	私 的		計	国 公 立	公 的	私 的		計			
病 院			診 療 所	病 院				診 療 所					
633	3	3	26	3	35	15	6	67	510	598	5.8	6.9	29.7
19	1		3		4			3	12	15	16.9	4.9	28.3
40	2				2	2		4	32	38	3.5	7.5	33.9
10	1		1		2				8	8	11.6	5.8	35.6
129		1	4		5	16	4	11	93	124	5.0	8.8	34.5
43			1		1	1		7	34	42	2.0	8.7	38.8
90	1		4	1	6	1		10	73	84	4.7	8.5	39.6
31								8	23	31		5.9	32.0
39	2				2	3		5	29	37	5.2	6.9	33.4
104			2		2	3		10	89	102	2.7	6.6	33.4
20								6	14	20		9.6	42.8
65	1		3	2	6			14	45	59	7.2	6.1	34.4
21			2		2	2		1	16	19	5.8	8.3	41.2
30	1		2		3			4	23	27	7.3	7.5	36.5
64			1	1	2			9	53	62	2.3	9.1	42.8
140	2		5	2	9	1		14	116	131	6.1	9.7	40.5
12			2		2				10	10	10.5	7.5	26.3
13			2		2	1		1	9	11	7.8	8.8	35.7
23	1		2		3	4		2	14	20	6.6	8.4	39.4
89	1		4		5	7		5	72	84	6.8	9.2	40.2
1,615	16	4	64	9	93	56	10	181	1,275	1,522	5.4	7.7	34.9

表-14 消防本部救急出動件数及び搬送人員

区分		事故種別救急出動件										
		計	火災	自然災害	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病
消防本部名												
鹿児島市消防局		25,317	127	1	21	2,299	154	135	3,263	123	315	14,660
枕崎市消防本部		1,088			3	87	9	7	135		8	584
出水市消防本部		2,133	1		1	188	16	13	259	4	32	1,296
垂水市消防本部		935			2	71	6	1	120	1	7	499
薩摩川内市消防局		4,035	23	1	7	305	26	45	525	7	63	2,354
日置市消防本部		2,145	3	1	3	152	15	30	264	4	19	1,252
霧島市消防本部		5,562	7	4	2	696	39	49	737	23	74	3,111
いちき串木野市消防本部		1,201			4	86	5	6	162	4	14	616
南さつま市消防本部		1,955			5	133	19	30	290	4	20	993
始良市消防本部		3,078	5		6	277	23	21	420	10	32	1,811
さつま町消防本部		1,053	4			78	16	8	129	5	16	556
指宿南九州消防組合		3,745	5		5	309	33	15	501	21	38	1,965
阿久根地区消防組合		2,196	3		5	123	18	9	285	4	10	1,334
伊佐湧水消防組合		1,838	4		1	131	19	16	228	7	24	934
大隅曾於地区消防組合		3,802	5		2	319	43	15	511	11	51	2,380
大隅肝属地区消防組合		6,374	9		4	641	41	44	746	32	71	3,670
沖永良部与論地区 広域事務組合		745			5	46	5	6	122	2	11	451
徳之島地区消防組合		1,719		2	3	80	19	13	276	7	10	1,204
熊毛地区消防組合		2,075			4	112	13	22	313	9	16	1,359
大島地区消防組合		4,331	2		22	209	24	21	601	22	34	2,724
計		75,327	198	9	105	6,342	543	506	9,887	300	865	43,753
時 間 区 分	0~2	3,415	9		3	148	9		429	50	52	2,414
	2~4	2,625	15	2	2	104	1		283	35	43	1,950
	4~6	2,509	15		1	118	11		287	26	37	1,857
	6~8	4,829	9		7	625	23	3	595	16	56	3,244
	8~10	9,012	15		9	788	90	34	1,324	11	84	4,913
	10~12	9,843	22	3	16	771	119	116	1,227	13	78	4,844
	12~14	8,679	24		16	667	73	118	1,088	8	69	4,314
	14~16	7,935	16	1	20	724	94	104	1,087	6	85	4,016
	16~18	7,985	15	1	12	880	77	58	1,135	19	104	4,118
	18~20	7,571	27	1	11	835	23	24	1,036	25	102	4,584
	20~22	6,324	23	1	1	409	13	41	839	37	85	4,292
	22~24	4,600	8		7	273	10	8	557	54	70	3,207

〔平成24年中〕

数 (件)				事故種別搬送人員 (人)											
その他				計	火災	自然災害	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他
転院搬送	医師搬送	資輸 機材 等送	その他												
3,416	2		801	22,977	30		16	2,204	151	137	3,016	108	221	13,454	3,640
243	6		6	1,042			1	91	9	7	133		4	554	243
313	1	1	8	1,928	1		1	201	14	12	238	3	18	1,129	311
227			1	942			2	106	6	1	118	1	3	476	229
642	8		29	3,699	8	1	4	316	26	45	491	7	41	2,168	592
395	5		2	2,053	3		3	156	15	30	259	4	13	1,175	395
799	18		3	5,116	5	1		656	38	47	681	17	52	2,820	799
301	1		2	1,118			3	83	5	6	148	4	7	563	299
450	1		10	1,886			4	150	18	30	283	3	14	931	453
464	1		8	2,901	5		4	281	22	23	397	8	22	1,674	465
237	4			973	2			78	14	8	119	4	7	507	234
837	1		15	3,569	5		3	329	33	14	478	21	26	1,826	834
398	1		6	2,113	4		5	129	17	9	278	4	7	1,262	398
468	1		5	1,737	3		1	154	18	16	222	8	11	837	467
459	3		3	3,650	6		2	342	41	15	493	7	34	2,253	457
1,099	5		12	6,044	8		3	668	41	42	712	25	49	3,398	1,098
95			2	700			4	49	5	5	118	2	9	411	97
105				1,675		1	2	79	19	13	269	7	8	1,170	107
204	21		2	1,953			1	122	11	20	293	8	12	1,281	205
593	1		78	3,601	3		15	178	26	20	501	15	22	2,253	568
11,745	80	1	993	69,677	83	3	74	6,372	529	500	9,247	256	580	40,142	11,891
218	1		82	3,032	7		2	135	11		369	43	43	2,207	215
133			57	2,341	9		1	96	1		246	30	30	1,790	138
112			45	2,247	8		1	107	11		259	22	26	1,703	110
183			68	4,428	3		4	612	23	3	569	15	36	2,973	190
1,631	16	1	96	8,437	3		6	794	87	34	1,272	9	55	4,534	1,643
2,514	15		105	9,252	6	2	15	784	110	112	1,184	14	45	4,422	2,558
2,181	20		101	8,122	13		12	687	72	120	1,021	8	42	3,946	2,201
1,673	15		94	7,441	4		15	752	93	102	1,027	5	46	3,705	1,692
1,448	12		106	7,461	11		7	887	77	57	1,075	14	69	3,786	1,478
816			87	6,967	5		6	839	22	25	941	22	72	4,203	832
501			82	5,762	10	1		413	13	39	782	33	61	3,910	500
335	1		70	4,187	4		5	266	9	8	502	41	55	2,963	334

表-15 曜日別月別救急出場件数

(平成24年中)

事故種別 (件)	火災	自然 災害	水難	交通 事故	労働 災害	運動 競技	一般 負傷	加害	自損 行為	急病	そ の 他				計	
											転院 搬送	医師 搬送	資機 材等 輸送	その 他		
曜日別	月	23		12	930	104	38	1,417	38	139	6,658	1,944	8		138	11,449
	火	18		13	928	100	40	1,295	37	134	6,060	1,843	14		128	10,610
	水	35	1	15	947	83	37	1,305	49	129	5,883	1,804	11	1	135	10,435
	木	27	3	21	881	75	49	1,309	34	119	6,130	1,790	14		135	10,587
	金	33	3	11	969	71	44	1,374	29	115	6,053	1,948	17		141	10,808
	土	36	2	20	916	77	111	1,492	53	107	6,297	1,481	10		143	10,745
	日	26		13	771	33	187	1,695	60	122	6,672	935	6		173	10,693
計	198	9	105	6,342	543	506	9,887	300	865	43,753	11,745	80	1	993	75,327	
月別	1月	17		6	425	42	35	907	18	66	4,095	1,030	4		89	6,734
	2月	23		4	458	46	20	795	23	52	3,959	1,032	4	1	83	6,500
	3月	14		7	566	47	34	799	37	88	3,601	970	6		87	6,256
	4月	15		7	514	32	33	756	18	68	3,392	945	8		69	5,857
	5月	14		13	514	44	54	722	24	62	3,331	919	7		73	5,777
	6月	16	3	8	443	46	56	689	21	69	3,179	917	3		66	5,516
	7月	9	2	13	538	51	66	778	31	81	3,697	938	6		95	6,305
	8月	13	2	24	608	43	49	858	19	89	3,990	1057	14		116	6,882
	9月	18	2	5	486	45	56	827	27	75	3,368	912	5		82	5,908
	10月	17		6	585	44	49	889	32	69	3,297	972	6		82	6,048
	11月	10		6	576	51	30	840	25	80	3,584	996	9		74	6,281
	12月	32		6	629	52	24	1027	25	66	4,260	1,057	8		77	7,263

第4 応急手当指導員等養成講習の状況

表-16

【指導員】

区分	講習修了者数						登録を抹消した者	講習回数
	計	消防職員	消防職員の退職者	消防団員	救命士等の医療従事者	その他		
平成24年中修了者	応急手当指導員講習Ⅰ	55	47	1		7	3	17
	応急手当指導員講習Ⅱ	17	17					
	応急手当指導員講習Ⅲ							
	消防長認定者	23	20	3			4	
	応急手当指導員講習Ⅰ免除者	34	34					
	計	129	118	4		7	7	17
前年中までの修了者	応急手当指導員講習Ⅰ	443	380	16		47	8	15
	応急手当指導員講習Ⅱ	1,056	431		625			
	応急手当指導員講習Ⅲ	2	1			1		
	消防長認定者	379	319	22		38	18	
	応急手当指導員講習Ⅰ免除者	110	106	2		2		
	計	1,990	1,237	40	625	88	26	15
合計	2,119	1,355	44	625	95	33	32	

表-17

【普及員】

区分	講習修了者数						登録を抹消した者	講習回数	
	計	消防職員	消防職員の退職者	消防団員	救命士等の医療従事者	その他			
平成24年中修了者	応急手当普及員講習Ⅰ	75	3		17	2	53	16	7
	応急手当普及員講習Ⅱ								
	消防長認定者	1					1		
	応急手当普及員講習Ⅱ免除者								
	計	76	3		17	2	54	16	7
前年中までの修了者	応急手当普及員講習Ⅰ	227	32		25		170	46	13
	応急手当普及員講習Ⅱ								
	消防長認定者	63	24	14		8	17	7	
	応急手当普及員講習Ⅱ免除者								
	計	290	56	14	25	8	187	53	13
合計	366	59	14	42	10	241	69	20	

第2 救助活動の概況

1 救助業務実施体制

平成25年4月1日現在、救助隊は34隊配置されており、そのうち5隊が特別救助隊で、1隊が高度救助隊である。

また、307人の救助隊員のうち33.6%にあたる103人が専任救助隊員である。

表-18 救助体制

(単位：隊、人)

区分	救助隊数			救助隊員数			
	省令	専任救助隊	兼任救助隊	計	専任救助隊員	兼任救助隊員	計
消防本部							
鹿児島市消防局	3	3		3	43		43
	4	2		2	29		29
	5	1		1	14		14
枕崎市消防本部	3		1	1		10	10
	4						
	5						
出水市消防本部	3	1		1	8		8
	4						
	5						
垂水市消防本部	3		1	1		5	5
	4						
	5						
薩摩川内市消防局	3	1	1	2	10	10	20
	4	1		1	10		10
	5						
日置市消防本部	3		1	1		12	12
	4						
	5						
霧島市消防局	3		2	2		8	8
	4						
	5						
いちき串木野市消防本部	3		1	1		11	11
	4						
	5						
南さつま市消防本部	3		1	1		10	10
	4						
	5						
始良市消防本部	3	1		1	8		8
	4						
	5						
さつま町消防本部	3		1	1		15	15
	4						
	5						
指宿南九州消防組合	3		1	1		10	10
	4						
	5						
阿久根地区消防組合	3		1	1		18	18
	4						
	5						
伊佐湧水消防組合	3		2	2		6	6
	4						
	5						
大隅曾於地区消防組合	3	2		2	16		16
	4	1		1	8		8
	5						
大隅肝属地区消防組合	3	1	2	3	10	30	40
	4	1		1	10		10
	5						
沖永良部与論地区広域事務組合	3		1	1		21	21
	4						
	5						
徳之島地区消防組合	3		1	1		19	19
	4						
	5						
熊毛地区消防組合	3		1	1		19	19
	4						
	5						
大島地区消防組合	3	1		1	8		8
	4						
	5						
県計	3	10	18	28	103	204	307
	4	5		5	57		57
	5	1		1	14		14

※ 省令3は省令第3条の規定による救助隊、省令4は省令第4条の規定による救助隊（特別救助隊）、省令5は省令第5条の規定による救助隊（高度救助隊）

表-19 救助隊が搭乗する車両

区分	救 助	はしご車	屈折 はしご車	ポンプ車	水槽付 ポンプ車	化学車	その他	計
	工 作 車							
消防本部								
鹿児島市消防局	3							3
枕崎市消防本部	1		1					2
出水市消防本部	1	1						2
垂水市消防本部					1		1	2
薩摩川内市消防局	1				1			2
日置市消防本部	1							1
霧島市消防局	2	1			1			4
いちき串木野市 消防本部	1	1						2
南さつま市消防本部	1	1					1	3
始良市消防本部	1							1
さつま町消防本部	1							1
指宿南九州消防組合	1	1			5	1		8
阿久根地区消防組合	1							1
伊佐湧水消防組合	2							2
大隅曾於地区消防組合	2	1			2		2	7
大隅肝属地区消防組合	1	1					1	3
沖永良部与論地区 広域事務組合	1						1	2
徳之島地区消防組合	1							1
熊毛地区消防組合	1							1
大島地区消防組合	1	1						2
県 計	24	8	1		10	1	6	50

2 救助業務実施状況

平成24年中における救助業務の実施状況は、救助出動件数859件、救助活動件数590件、救助人員861人となっている。（表-20）

これを前年と比較すると出動件数は94件（12.3%）の増加、活動件数は112件（23.4%）の増加、救助人員は191人（28.5%）の増加となっている。

表-20 過去20年間の救助業務実施状況の推移

（単位：件、人）

	出動件数	活動件数	救助人員
平成5年	1,185	357	4,955
平成6年	1,221	307	358
平成7年	1,049	306	332
平成8年	1,126	330	344
平成9年	1,138	359	415
平成10年	1,107	405	440
平成11年	1,137	428	495
平成12年	1,093	500	583
平成13年	1,158	519	594
平成14年	1,188	505	613
平成15年	1,153	458	548
平成16年	1,320	491	570
平成17年	1,259	591	552
平成18年	757	452	664
平成19年	772	484	732
平成20年	716	462	527
平成21年	771	509	669
平成22年	713	480	629
平成23年	765	478	670
平成24年	859	590	861

表-21-1 事故種別出動件数及び出動人員の状況（平成24年）

（単位：件，人）

事故種別	火災	交通事故	水難事故	自然災害等	風雨災害等	機械による事故	建築物等に	ガス欠及	破裂事故	その他の事故	計
消防本部											
鹿児島市消防局	31	65	22	1	2	12	9			40	182
枕崎市消防本部		6	2							1	9
出水市消防本部		10	1							7	18
垂水市消防本部		7	2							4	13
薩摩川内市消防局	3	41	5		6	3	1			11	70
日置市消防本部		14	2							3	19
霧島市消防局		50	1	1	3		2			11	68
いちき串木野市消防本部		12	4							4	20
南さつま市消防本部	4	10	2		2	4				4	26
始良市消防本部		60	5	1	1					65	132
さつま町消防本部		8			1					3	12
指宿南九州消防組合		32	6		1	1	1			20	61
阿久根地区消防組合		19	1		1	1				3	25
伊佐湧水消防組合		21	2		1					5	29
大隅曾於地区消防組合		39	2		4					5	50
大隅肝属地区消防組合	1	31	3	1	2	1				9	48
沖永良部与論地区広域事務組合		3	1		1					2	7
徳之島地区消防組合		2	1							2	5
熊毛地区消防組合		6	3		1					14	24
大島地区消防組合		19	9							13	41
救助出動件数 計	39	455	74	4	26	22	13			226	859
救助出動人員	専任救助隊員	216	885	192	10	48	86	59		410	1,906
	兼任救助隊員	21	661	105	4	47	21	11		183	1,053
	消防隊員	757	1,220	307	14	76	51	46		543	3,014
	救急隊員	107	1,705	221	14	83	40	35		596	2,801
	消防団員	271	2	117						67	457
	計	1,372	4,473	942	42	254	198	151		1,799	9,231

表-21-2 事故種別活動件数及び活動人員の状況（平成24年）

（単位：件，人）

事故種別	火災	交通事故	水難事故	自然災害等	風雨災害等	機械による事故	建築物等による事故	ガス欠等及び酸欠	破裂事故	その他の事故	計
消防本部											
鹿児島市消防局	31	51	20	1	1	12	5			33	154
枕崎市消防本部		1	2							1	4
出水市消防本部		10	1							7	18
垂水市消防本部		7	2							4	13
薩摩川内市消防局	3	21	3		6	3	1			9	46
日置市消防本部		6	2							3	11
霧島市消防局		23		1	2		1			6	33
いちき串木野市消防本部		6	3							4	13
南さつま市消防本部	4	4	1		1	3				2	15
始良市消防本部		57	5	1	1					57	121
さつま町消防本部		7								2	9
指宿南九州消防組合		19	6				1			16	42
阿久根地区消防組合		8				1				3	12
伊佐湧水消防組合		7	2		1					2	12
大隅曾於地区消防組合		14	1		3					2	20
大隅肝属地区消防組合	1	11	2		1	1				3	19
沖永良部与論地区広域事務組合		1			1					2	4
徳之島地区消防組合		2	1							2	5
熊毛地区消防組合		4	2		1					11	18
大島地区消防組合		5	7							9	21
救助活動件数 計	39	264	60	3	18	20	8			178	590
救助活動人員	専任救助隊員	205	425	132	7	29	51	36		263	1,148
	兼任救助隊員	21	254	80		28	14	6		103	506
	消防隊員	590	689	211	3	51	34	29		340	1,947
	救急隊員	74	866	158	10	49	26	26		415	1,624
	消防団員		2	107						62	171
	計	890	2,236	688	20	157	125	97		1,183	5,396

（注）「救助活動件数」とは、救助出動件数のうち、実際に救助活動を行った件数をいう。

表-21-3 事故種別救助人員の状況（平成24年）

（単位：人）

事故種別	火災	交通事故	水難事故	自然災害等	風雨災害等	機械による事故	建築物等に	ガス欠等及び	破裂事故	その他の事故	計
消防本部											
鹿児島市消防局	13	57	17			1	16			38	142
枕崎市消防本部		2	2							1	5
出水市消防本部		10	2							7	19
垂水市消防本部		22	3							4	29
薩摩川内市消防局	3	27	2			10	3	1		9	55
日置市消防本部		20	6							12	38
霧島市消防局		26		1		2		1		6	36
いちき串木野市消防本部		8	3							4	15
南さつま市消防本部	4	4				1	3			2	14
始良市消防本部		64	4	7		1				60	136
さつま町消防本部		7								2	9
指宿南九州消防組合		21	191					1		16	229
阿久根地区消防組合		9					1			3	13
伊佐湧水消防組合		18	2			1				2	23
大隅曾於地区消防組合		16	1			3				2	22
大隅肝属地区消防組合	1	13	2			1	1			3	21
沖永良部与論地区広域事務組合		1				1				5	7
徳之島地区消防組合		2	1							2	5
熊毛地区消防組合		4	3			1				14	22
大島地区消防組合		5	7							9	21
救助人員計	21	336	246	8		22	24	3		201	861

表-22 救助活動のための機械器具等の保有状況（救助隊保有分）

一般救助用器具	かぎ付きはしご	32	隊員保護用器具	耐電手袋	118
	三連はしご	31		耐電衣	32
	金属折りたたみはしご又はワイヤはしご	18		耐電ズボン	27
	空気式救助マット	23		耐電長靴	71
	救命索発射銃	35		防塵メガネ	116
	サバイバースリング又は救助用縛帯	90		携帯警報器	68
	平担架	17		防毒マスク	65
重量物排除用器具	油圧ジャッキ	35	化学防護服（陽圧式化学防護服を除く）	29	
	油圧スプレッダー	15	陽圧式化学防護服	42	
	可搬ウィンチ	33	耐熱服	18	
	マンホール救助器具	16	放射線防護服	63	
	救助用簡易起重機	2	特殊ヘルメット	7	
	マット型空気ジャッキ	34	除染用具	除染シャワー	1
	大型油圧スプレッダー	14	除染剤散布器	2	
切断用器具	救助用支柱器具	9	水難救助用器具	潜水器具	82
	チェーンブロック	9	救命胴衣	240	
	油圧切断機	20	水中投光器	18	
	エンジンカッター	31	救命浮環	85	
	ガス溶断機	20	浮標	24	
	チェーンソー	34	救命ボート	12	
	鉄線カッター	42	船外機	10	
破壊用器具	空気鋸	29	水中スクーター	1	
	大型油圧切断機	14	水中無線機	1	
	空気切断機	13	水中時計	10	
	コンクリート・鉄筋切断用チェーンソー	5	水中テレビカメラ	1	
	万能斧	67	山岳救助用具	登山器具	18
	ハンマー	36	バスケット型担架	35	
	携帯用コンクリート破壊器具	14	検用器具	簡易画像探索機	4
測定用器具	削岩機	17	画像探索機	7	
	ハンマドリル	13	高度救助器具	地中音響探知機	2
	生物剤検知器	2	熱画像直視装置	6	
	可燃性ガス測定器	19	夜間暗視装置	2	
	有毒ガス測定器	22	水中探査装置	1	
	酸素濃度測定器	16	地震警報器	1	
	放射線測定器	37	その他救助用器具	投光器	58
呼吸保護用器具	空気呼吸器	158	携帯投光器	44	
	空気補充用ボンベ	208	携帯拡声器	49	
	酸素呼吸器	26	携帯無線機	52	
	簡易呼吸器	9	応急処置用セット	22	
	防塵マスク	105	車両移動器具	11	
	送排風機	27	緩降機	26	
	エアラインマスク	2	ロープ登降機	39	
			救助用降下機	14	
			発電機	58	

第3 自衛隊災害派遣による離島急患搬送

離島における医療体制の実情により、現地では治療困難な患者で、一刻も早く専門病院での手当てが必要である者に対して、昭和36年から自衛隊に対し、災害派遣要請（航空機搬送）を実施している。

搬送機関・活動範囲

海上自衛隊第1航空群 鹿屋航空分遣隊（鹿屋市）

十島村以北

陸上自衛隊第15旅団 第15飛行隊（沖縄県那覇市）

奄美大島以南

1 自衛隊災害派遣（離島急患搬送）の状況

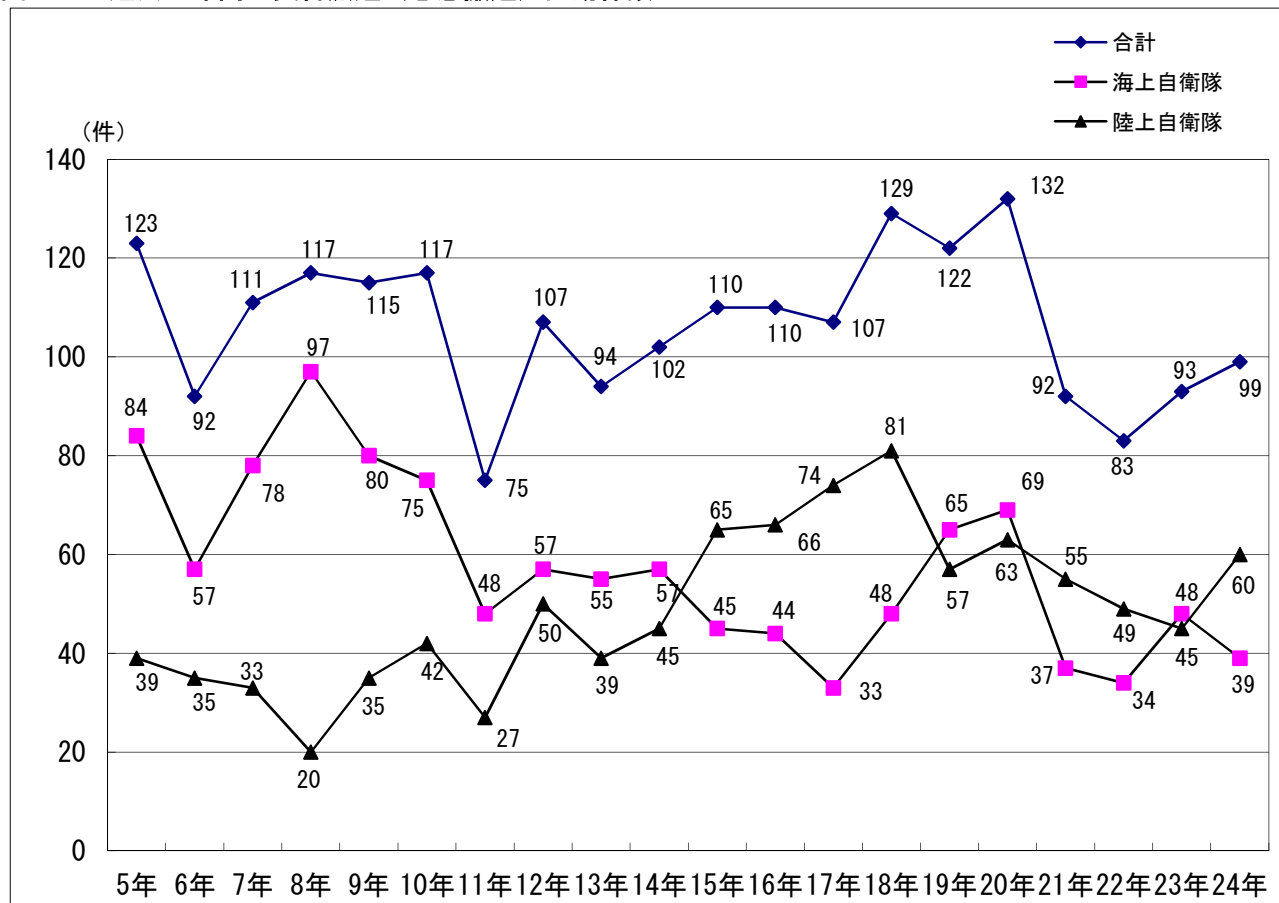
平成24年中における急患搬送出動件数は99件である。（図-3）

出動件数99件を郡別にみると、大島郡（奄美市を含む）が68件（全体の68.7%）で、次に熊毛郡（西之表市を含む）が19件（同19.2%）、鹿児島郡が11件（同11.1%）、薩摩川内市が1件（同1.0%）となっている。（図-4及び表-23）

また、月別では、2月の13件が最も多く、時間帯別（派遣要請時間）では18時から20時までが15件で最も多くなっている。（表-24）

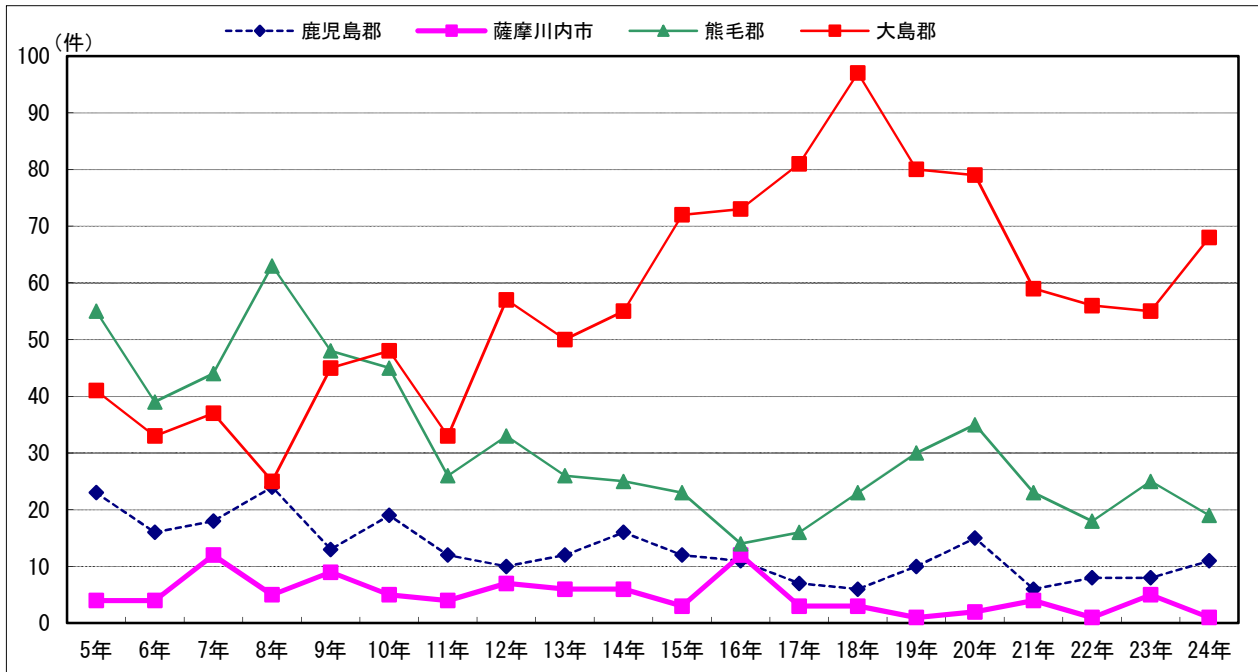
平成24年中の搬送人員を傷病別にみると、内臓疾患によるものが46人（全体の45.5%）で最も多く、次に脳疾患18人（同17.8%）となっている。（表-25及び表-26）

図-3 過去20年間の災害派遣（急患搬送）出動件数



（注）「海上自衛隊」には、教育航空集団を、「陸上自衛隊」には南西航空混成団をそれぞれ含んでいる。

図－4 過去20年間の市・郡別災害派遣（急患搬送）の出動件数（その1）



表－23 過去20年間の市・郡別災害派遣（急患搬送）出動件数（その2）

（年中）

年	郡別	計	鹿児島郡	薩摩川内市	熊本郡	大島郡	計のうち不搬送件数
平成 5 年		123 (39)	23	4	55	41 (39)	鹿屋1件
6		92 (35)	16 (2)	4	39	33 (33)	沖繩1件
7		111 (33)	18	12	44	37 (33)	
8		117 (21)	24	5	63	25 (21)	
9		115 (35)	13	9	48	45 (35)	鹿屋1件
10		117 (42)	19	5	45	48 (42)	鹿屋1件
11		75 (27)	12	4	26	33 (27)	鹿屋1件
12		107 (50)	10	7	33	57 (50)	鹿屋2件
13		94 (39)	12	6	26	50 (39)	鹿屋2件
14		102 (45)	16	6	25	55 (45)	鹿屋2件
15		110 (65)	12	3	23	72 (65)	
16		110 (66)	11	12	14	73 (66)	
17		107 (74)	7	3	16	81 (74)	
18		129 (81)	6 (1)	3	23	97 (80)	鹿屋1件
19		122 (57)	11	1	30	80 (57)	鹿屋2件, 沖繩2件
20		132 (63)	16	2	35	79 (63)	鹿屋1件
21		92 (55)	6	4	23	59 (55)	
22		83 (49)	8 (1)	1	18	56 (48)	鹿屋1件, 沖繩2件
23		93 (45)	8	5	25	55 (45)	鹿屋1件, 沖繩1件
24		99 (60)	11	1	19	68 (60)	沖繩1件
計		2,130 (981)	259 (4)	97	630	1144 (977)	沖繩分構成比
構成比率		100.0%	12.2%	4.6%	29.6%	53.7%	(46.1%)

- （注） 1 （ ）内は沖繩自衛隊出動件数の内書きである。
 2 便宜上、熊本郡には西之表市、大島郡には奄美市をそれぞれ含めている。
 3 平成7年、12年、14年、19年及び20年の鹿児島郡には、各年1件ずつ、離島外からの搬送を含む。

余 白

表-24 過去20年間の月別及び時間帯別災害派遣（離島急患搬送）出動件数

区分		年別	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
月	1		12 (5)	10 (4)	11 (4)	8 (1)	9 (2)	10 (2)	5 (1)	12 (8)	8 (5)	5 (2)
	2		5	7 (1)	12 (8)	12 (4)	11 (4)	13 (5)	5 (2)	12 (6)	5 (3)	8 (5)
	3		9 (1)	6 (1)	6 (1)	7 (2)	8 (3)	11 (6)	13 (5)	4 (1)	8 (2)	8 (4)
	4		6 (1)	7 (2)	7 (1)	7 (2)	15 (9)	13 (4)	4 (3)	6 (3)	5 (2)	2 (1)
	5		13 (2)	7 (5)	10 (4)	9	8 (2)	8 (3)	9 (4)	9 (6)	6 (1)	11 (3)
	6		8 (3)	6 (3)	7	7 (1)	7 (1)	9 (7)	2	11 (6)	7 (5)	5 (4)
	7		7 (2)	11 (5)	8 (2)	13 (1)	7 (2)	11 (6)	11 (5)	7 (4)	6 (3)	13 (7)
	8		11 (1)	5 (2)	11 (4)	14 (3)	12 (2)	10 (1)	5	9 (4)	8 (2)	7 (4)
	9		17 (8)	12 (6)	10 (4)	9 (2)	3 (1)	4 (1)	4 (2)	7 (1)	10 (4)	14 (3)
	10		13 (5)	8 (3)	15 (2)	10 (2)	14 (4)	10 (4)	3 (2)	12 (4)	9 (4)	13 (5)
	11		5 (2)	5	7 (2)	5 (1)	8 (1)	3 (1)	6	12 (5)	17 (4)	8 (2)
	12		17 (9)	8 (3)	7 (1)	16 (2)	13 (4)	15 (2)	8 (3)	6 (2)	5 (4)	8 (5)
計			123 (39)	92 (35)	111 (33)	117 (21)	115 (35)	117 (42)	75 (27)	107 (50)	94 (39)	102 (45)
時間帯	0~2		2 (1)	6 (2)	2	6 (3)	3 (1)	2	4	5 (1)	2 (1)	6
	2~4		3 (2)	1	3 (2)	4	3	1 (1)		5 (1)	5 (3)	9 (4)
	4~6		2 (2)	1	2	2	5 (2)	4 (2)	1 (1)	10 (8)	6 (1)	3 (1)
	6~8		2 (1)	2	5 (2)	6	7 (3)	4 (3)	3	4 (2)	2 (2)	3 (3)
	8~10		13 (3)	10 (3)	8 (1)	11 (2)	7 (3)	11 (6)	8 (4)	11 (9)	6 (4)	11 (6)
	10~12		19 (4)	18 (7)	17 (4)	13 (2)	20 (9)	17 (7)	8 (7)	9 (6)	12 (6)	12 (6)
	12~14		20 (11)	15 (6)	17 (3)	13 (1)	11 (1)	20 (7)	8 (3)	4 (3)	8 (5)	8 (4)
	14~16		17 (4)	12 (8)	21 (5)	18 (2)	13 (2)	15 (6)	11 (3)	8 (4)	8 (3)	8 (5)
	16~18		14 (3)	6 (2)	9 (1)	10 (3)	13 (5)	14 (4)	12 (3)	14 (5)	16 (4)	12 (4)
	18~20		16 (5)	10 (2)	13 (8)	18 (6)	21 (6)	10 (3)	8 (4)	17 (3)	8 (4)	16 (8)
	20~22		8 (1)	3 (1)	9 (5)	5	8 (2)	14 (2)	8 (2)	10 (2)	9 (3)	9 (4)
22~24		7 (2)	8 (4)	5 (2)	11 (2)	4 (1)	5 (1)	4	10 (6)	12 (3)	5	

(注) 1 ()内は沖縄自衛隊出動件数の内書きである。
 2 「時間帯」は、自衛隊への派遣要請時間である。

(年中)

15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	計
5 (2)	10 (6)	9 (5)	11 (5)	8 (4)	21 (11)	12 (5)	7 (4)	11 (3)	3 (2)	187 (81)
4 (4)	15 (10)	8 (8)	11 (8)	8 (3)	9 (4)	8 (8)	9 (7)	4 (4)	13 (8)	179 (102)
13 (5)	10 (4)	10 (7)	9 (7)	16 (10)	15 (6)	4 (4)	3 (2)	9 (4)	5 (3)	174 (78)
8 (5)	9 (5)	10 (7)	11 (7)	9 (6)	9 (3)	6 (4)	7 (3)	5 (1)	11 (5)	157 (74)
11 (9)	7 (6)	11 (7)	7 (6)	4 (1)	9 (6)	9 (5)	5 (4)	5 (4)	5 (4)	163 (82)
12 (5)	4 (3)	8 (6)	11 (5)	10 (4)	5 (3)	7 (6)	6 (4)	8 (1)	8 (4)	148 (71)
9 (5)	7 (4)	7 (6)	11 (7)	2 (2)	7 (4)	6 (5)	5 (3)	7 (6)	9 (6)	164 (85)
5 (3)	4 (2)	5 (5)	13 (7)	11 (6)	10 (5)	10 (5)	6 (4)	6 (2)	9 (7)	171 (69)
8 (7)	15 (11)	8 (5)	8 (4)	7 (3)	4 (2)	8 (3)	5 (4)	9 (5)	7 (5)	169 (81)
13 (5)	10 (7)	13 (10)	6 (5)	21 (8)	12 (4)	9 (5)	11 (1)	10 (7)	9 (4)	221 (91)
11 (7)	11 (6)	8 (4)	17 (9)	13 (4)	18 (8)	6 (1)	10 (4)	12 (4)	11 (8)	193 (73)
11 (8)	8 (2)	10 (4)	14 (11)	13 (6)	13 (7)	7 (4)	9 (9)	7 (4)	9 (4)	204 (94)
110 (65)	110 (66)	107 (74)	129 (81)	122 (57)	132 (63)	92 (55)	83 (49)	93 (45)	99 (60)	2130 (981)
10 (6)	6 (3)	3 (3)	6 (3)	2 (1)	6 (1)	9 (3)	7 (6)	5	8 (5)	100 (40)
2 (1)	2 (1)	4 (2)	3 (2)	2 (1)	4 (2)	2 (1)	3	5 (2)	4 (2)	65 (27)
2	5 (4)	4 (2)	5 (3)	5 (2)	3 (2)	3 (1)	1 (1)	1	5 (2)	70 (34)
3 (2)	6 (3)	10 (8)	5 (3)	7 (4)	3	2 (1)	1	1 (1)	5 (5)	81 (43)
19 (16)	13 (9)	7 (5)	11 (5)	13 (4)	13 (4)	4 (2)	9 (6)	9 (4)	5 (5)	199 (101)
21 (12)	21 (15)	14 (9)	21 (14)	19 (11)	12 (6)	13 (11)	9 (4)	10 (8)	9 (6)	294 (154)
9 (7)	11 (6)	11 (10)	19 (13)	11 (7)	15 (11)	11 (7)	12 (6)	6 (2)	5 (2)	234 (115)
6 (6)	12 (10)	8 (5)	5 (3)	10 (5)	18 (10)	9 (7)	11 (8)	5 (2)	7 (5)	222 (103)
12 (6)	9 (3)	14 (9)	18 (15)	10 (3)	11 (8)	11 (5)	7 (5)	11 (8)	13 (8)	236 (104)
5 (1)	11 (7)	9 (6)	13 (7)	21 (5)	11 (4)	10 (5)	5 (2)	14 (3)	15 (9)	251 (98)
14 (5)	9 (3)	14 (8)	11 (8)	13 (8)	13 (5)	7 (5)	10 (6)	20 (12)	11 (6)	205 (88)
7 (3)	5 (2)	9 (7)	12 (5)	9 (6)	23 (10)	11 (7)	8 (5)	6 (3)	12 (5)	173 (74)

表-25 平成24年中の市町村別搬送人員傷病別内訳

市町村別		傷病別 合 計	交通事故		労働災害		脳疾患	頭部損傷 (一般負傷)	産科・ 婦人科	小児科	内臓疾患	その他
			頭部	その他	頭部	その他						
鹿児島郡	三島村	3					1					2
	十島村	8		1			3	1			3	
薩摩川内市		1					1					
熊毛郡 (西之表市含)	西之表市	4							2		1	1
	中種子町	2							2			
	南種子町	1									1	
	屋久島町	13	1	2			2				7	1
大島郡 (奄美市含)	奄美市	9 (4)							4		3 (3)	2 (1)
	龍郷町	1 (1)										1 (1)
	大和村											
	宇検村	1									1	
	瀬戸内町	2					1				1	
	喜界町	31 (31)		2 (2)			8 (8)	1 (1)	1 (1)		19 (19)	
	徳之島町	7 (7)							3 (3)	1 (1)	2 (2)	1 (1)
	天城町	1 (1)								1 (1)		
	伊仙町	8 (8)								3 (3)	3 (3)	2 (2)
	和泊町	2 (2)									2 (2)	
	知名町	4 (4)					1 (1)		1 (1)		1 (1)	1 (1)
与論町	3 (3)					1 (1)				2 (2)		
計		101 (61)	1	5 (2)			18 (10)	2 (1)	13 (5)	5 (5)	46 (32)	11 (6)

(注1) ()内は、沖縄自衛隊搬送人員の内書きである。

(注2) 不搬送1名の傷病者含む。2名同時搬送2回あり。

表-26 過去20年間の離島急患搬送人員及び傷病別内訳

(年中)

傷病別 年別	計	交通事故		労働災害		脳疾患	頭部損傷 (一般負傷)	産科・ 婦人科	小児科	内臓疾患	その他
		頭部	その他	頭部	その他						
5	125 (41)	1 (1)				54 (13)	8 (2)	10 (5)	5 (1)	30 (15)	17 (4)
6	93 (33)	3 (2)	2 (1)		3	26 (12)	7 (4)	10 (3)	1	29 (9)	12 (2)
7	115 (33)	1 (1)	3	1	4	35 (12)	10 (5)	10 (5)		49 (10)	2
8	126 (25)	5 (1)	5 (1)		5 (2)	28 (4)	14 (2)	5 (2)	2 (2)	60 (11)	2
9	116 (37)	1 (1)	2 (1)	4 (1)	5 (1)	32 (10)	3 (1)	3 (1)	11 (4)	51 (16)	4 (1)
10	117 (43)	1 (1)	3 (2)		3	33 (11)	2 (1)	10 (6)	6 (1)	52 (18)	7 (3)
11	75 (28)	2	1 (1)	1	1	13 (6)	5 (2)	6 (2)	4	37 (15)	5 (2)
12	106 (51)	3 (2)	1 (1)		2	30 (18)	3 (3)	12 (6)	7 (3)	45 (18)	3
13	92 (39)	1 (1)	2	2 (1)	5 (1)	20 (9)	2 (2)	4 (3)	5 (2)	41 (16)	10 (4)
14	102 (46)	1 (1)	4 (3)		4 (2)	15 (5)	7 (3)	5 (4)	13 (8)	48 (18)	5 (2)
15	110 (66)	2 (1)	2 (1)		4 (1)	30 (15)	3 (1)	12 (11)	10 (9)	38 (22)	9 (5)
16	111 (66)	1 (1)	1 (1)		1	23 (11)	2 (1)	13 (8)	20 (16)	47 (28)	3
17	103 (71)		1			21 (16)	4 (2)	21 (15)	5 (5)	46 (30)	5 (3)
18	126 (79)		4 (4)	1 (1)	2 (1)	24 (9)		29 (20)	11 (7)	51 (35)	4 (2)
19	117 (55)		1 (1)		4 (2)	19 (11)		21 (11)	15 (7)	47 (20)	10 (3)
20	131 (64)	1	1		3 (1)	29 (17)	2 (1)	23 (9)	18 (11)	45 (21)	9 (4)
21	93 (56)	1 (1)	2	2 (1)	1	19 (11)		16 (10)	10 (6)	37 (25)	5 (2)
22	83 (49)	2 (1)	1 (1)			17 (9)	4 (3)	14 (7)	2 (2)	30 (18)	13 (8)
23	94 (46)		1			21 (9)	1 (1)	22 (6)		36 (23)	13 (7)
24	101 (61)	1	5 (2)			18 (10)	2 (1)	13 (5)	5 (5)	46 (32)	11 (6)

(注) 本表は、鹿屋の海上自衛隊第1航空群及び沖縄の陸上自衛隊第15旅団(内書き)が搬送した人員である。

第4 消防・防災ヘリコプターの活動

1 消防・防災ヘリコプターの導入

県では、大規模災害時における広範な消防防災活動を行うほか、急患搬送、災害危険箇所の調査点検などに幅広く活用するとともに、災害時の被害状況をよりの確かつ迅速に把握するため、消防・防災ヘリコプター「さつま」を導入し、平成10年4月1日、運航拠点となる枕崎空港に防災航空センターを設置するとともに枕崎、指宿、南さつまの3消防組合・本部から派遣された消防職員6名で編成する鹿児島県防災航空隊を発足させた。

なお、平成21年10月1日から、ドクターヘリ導入までの間、消防・防災ヘリの積極的活用として、本土内の救急搬送を開始した。

2 消防・防災ヘリコプターの活動内容

消防・防災ヘリコプターは以下の活動を行うこととしている。

- (1) 災害応急対策活動
 - ア 被災状況等の調査及び情報収集活動
 - イ 食料、衣料その他の生活必需品及び復旧資材等の救援物資、人員等の搬送
 - ウ 災害に関する情報、警報等の伝達等広報宣伝活動
 - エ その他、災害応急対策活動上、特に、航空機による活動が有効と認められる場合
- (2) 救急活動
 - ア 山村、離島等からの救急患者の搬送
 - イ 傷病者発生地への医師搬送及び医療機材等の搬送
 - ウ 高度医療機関のない地域からの傷病者の病院搬送
 - エ 消防・防災ヘリの積極的活用としての本土内搬送
 - オ その他、救急活動上、特に、航空機による活動が有効と認められる場合
- (3) 火災防御活動
 - ア 林野火災等における空中からの消火活動
 - イ 被災状況調査及び情報収集活動
 - ウ 消防隊員、消防資機材等の搬送
 - エ その他、火災防御活動上、特に、航空機による活動が有効と認められる場合
- (4) 救助活動
 - ア 河川、海等での水難事故、山岳遭難事故等における捜索または救助
 - イ 高層建築物火災における救助
 - ウ 山崩れ等の被害により、陸上から接近できない被災者等の救助
 - エ 高速道路及び自動車専用道路での事故救助
 - オ その他、救助活動上、特に、航空機による活動が有効と認められる場合
- (5) 広域航空消防防災応援活動
 - ア 県が締結している他県との相互応援協定等による相互応援
- (6) 災害予防活動
- (7) 自隊訓練のための活動
- (8) 各種防災訓練等への参加等
- (9) その他知事が必要と認める活動

表-27 消防・防災ヘリコプター「さつま」の諸元・性能

型 式	ベル式412EP型
定 員	13名（増槽タンク非装着時15名）
最 大 全 装 備 重 量	5,398kg
空 虚 重 量	3,820kg
有 効 搭 載 量	1,578kg
航 続 距 離	720km
最 大 巡 航 速 度	259km/h
限 界 高 度	6,096m
全 長	17.1m
全 幅	2.9m
全 高	4.6m
消 火 用 水 積 載 量	1,400ℓ（ドロップタンク）

表-28 消防・防災ヘリコプターの運航状況

(平成24年)

区分	月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計	総計		
緊急運航	災害応急対策活動	件数				1		1						2	60件 101時間00分		
		時間				3:25		1:30						4:55			
	救急活動	件数	4	6	3	1	6	1	5	3	4	2	1	1		37	
		時間	7:10	8:35	5:55	1:20	11:40	1:05	7:15	6:05	7:55	1:15	1:45	0:40		60:40	
	火災防 御活動	件数														0	
		時間														0:00	
	救助活動	件数	3	1	3	1	1		2	3	1	2		2		19	
		時間	6:45	0:40	6:25	0:20	1:00		1:35	6:45	0:35	1:40		4:55		30:40	
	広域応援	件数											1	1		2	
		時間											1:20	3:25		4:45	
	災害予防活動	件数	1													1	1件 1時間50分
		時間	1:50													1:50	
合同訓練	他県広域関係	件数												0	38件 39時間50分		
		時間												0:00			
	県市町村関係	件数	3		2		5		1	5	5	3	3	27			
		時間	2:50		2:45		4:35		1:15	9:00	4:50	3:10	2:50	31:15			
	合同訓練 事前訓練	件数		1			2	1		3	1	3		11			
		時間		1:05			1:10	0:35		1:35	1:10	3:00		8:35			
自隊訓練	件数	7	5	11	10	8	6	9	5	6	5	8	3	83	83件 108時間55分		
	時間	9:35	6:50	15:10	13:35	11:20	7:05	10:15	6:30	7:35	7:15	10:00	3:45	108:55			
その他	件数				2			4	4	5	1	2	2	20	20件 29時間50分		
	時間				1:55			8:10	7:45	3:50	2:35	1:35	4:00	29:50			
合計	件数	18	13	19	15	22	9	21	23	22	16	15	9	202	202件 281時間25分		
	時間	28:10	17:10	30:15	20:35	29:45	10:15	28:30	37:40	25:55	18:55	17:30	16:45	281:25			

表-29 消防・防災ヘリコプターの活動状況（H24年中）

(1) 災害応急対策活動状況

件数	回数	月 日	災害種別	発 生 場 所	時 間
1	2	4/22	ア	南大隅町	3:25
2	1	6/28	ア	肝付町	1:30
2件 2回 4時間55分					

(2) 救急活動状況

件数	回数	月 日	災害種別	発 生 場 所	搬送人員	時 間
1	1	1/14	ア	屋久島町	1	1:20
2	1	1/22	ア	十島村(中之島)	1	2:25
3	1	1/25	ア	西之表市	1	1:25
4	1	1/26	エ	出水市	1	2:00
5	1	2/13	ア	十島村(口之島)	1	2:25
6	1	2/18	オ	指宿市	1	0:25
7	1	2/21	ア	西之表市	1	1:30
8	1	2/22	ア	西之表市	1	1:25
9	1	2/25	エ	指宿市	1	0:40
10	1	2/29	ア	十島村(口之島)	1	2:10
11	1	3/2	ア	西之表市	1	1:15
12	1	3/10	ア	十島村(諏訪瀬島)	1	2:50
13	1	3/15	エ	出水市	1	1:50
14	1	4/21	ア	三島村(竹島)	1	1:20
15	1	4/30	オ	屋久島	1	0:45
16	1	5/7	ア	十島村(悪石島)	1	2:40
17	1	5/11	ア	十島村(宝島)	1	3:10
18	1	5/12	ア	西之表	1	1:30
19	1	5/29	ア	屋久島	1	1:20
20	1	5/30	ア	中之島	1	2:15
21	1	6/7	ア	薩摩川内市(下甑島)	1	1:05
22	1	7/5	ア	十島村(中之島)	1	2:15
23	1	7/5	オ	南さつま市	1	0:15
24	1	7/14	ア	十島村(悪石島)	1	2:35
25	1	7/24	エ	出水市	1	1:40
26	1	7/26	オ	屋久島	1	0:30
27	1	8/6	ア	十島村(小宝島)	1	3:00
28	1	8/6	エ	出水市	1	1:40
29	1	8/11	ア	屋久島	1	1:25
30	1	9/4	ア	西之表	1	1:10
31	1	9/8	ア	十島村(諏訪之瀬島)	1	2:15
32	1	9/12	ア	十島村(小宝島)	2	3:05
33	1	9/13	ア	屋久島	1	1:25
34	1	10/6	オ	屋久島	1	0:40
35	1	10/6	オ	屋久島	1	0:35
36	1	11/28	エ	出水市	1	1:45
37	1	12/17	エ	指宿市	1	0:40
37件 37回 60時間40分						

(3) 火災防御活動状況

件数	回数	月 日	災害種別	発 生 場 所	時 間
0件 0回 0時間00分					

(4) 救助活動状況

件数	回数	月 日	災害種別	発 生 場 所	時 間
1	1	1/5	ア	宮崎県えびの市(山岳搜索)	2:10
2	1	1/6	ア	宮崎県えびの市(山岳搜索)	2:15
3	1	1/7	ア	宮崎県えびの市(山岳搜索)	2:20
4	1	2/18	ア	指宿市(水難救助)	0:40
5	1	3/5	ア	中種子町(水難搜索)	2:10
6	1	3/6	ア	中種子町(水難搜索)	2:00
7	1	3/26	オ	屋久島町(情報収集)	2:15
8	1	4/11	ア	南さつま市(水難搜索)	0:20
9	1	4/30	ア	屋久島(山岳救助)	1:00
10	1	7/5	ア	南さつま市(水難救助)	0:15
11	1	7/26	ア	屋久島(山岳救助)	1:20
12	1	8/8	ア	薩摩川内市(水難搜索)	1:30
13	1	8/28	ア	南さつま市(水難搜索)	1:45
14	2	8/29	ア	南さつま市(水難搜索)	3:30
15	1	9/9	ア	始良市(山岳救助)	0:35
16	1	10/6	ア	屋久島(水難救助)	0:55
17	1	10/6	ア	屋久島(山岳救助)	0:45
18	1	12/6	ア	指宿市(水難搜索)	1:55
19	2	12/7	ア	指宿市(水難搜索)	3:00
19件 21回 30時間40分					

(5) 広域航空消防防災応援活動

件数	回数	月 日	災害種別	発 生 場 所	時 間
1	1	11/28	ア	熊本県(救急)	1:20
2	1	12/24	ア	熊本県(山岳搜索)	3:25
2件 2回 4時間45分					

(6) 各種防火訓練等への参加等

件数	回数	月 日	訓練内容	訓練名及び実施場所	時 間
1	1	1/8	救助	南九州市消防出初式	0:35
2	1	1/8	情報収集	鹿児島市消防出初式	0:35
3	1	1/12	情報収集	桜島火山爆発総合防災訓練	1:40
4	1	3/5	救助	日置市火災予防運動合同訓練	0:50
5	1	3/9	救助	久七トンネル防災訓練	1:55
6	1	5/23	情報収集	鹿児島市大規模災害(火山)想定訓練	1:00
7	1	5/25	情報収集	新設志布志消防署ヘリポート離発着訓練及び津波被害想定訓練	1:20
8	1	5/26	救助	鹿児島県総合防災訓練	1:05
9	1	5/27	救助・情報収集	肝属町総合防災訓練	0:30
10	1	5/27	救助・情報収集	鹿屋市総合防災訓練	0:40
11	1	7/2	救助・情報収集	鹿児島市サンロイヤルホテル消防演習	1:15
12	1	8/13	搬送	大規模災害想定訓練	5:00
13	1	8/19	救助	長島町防災訓練	1:25
14	1	8/22	情報収集	霧島山系情報収集訓練	1:20
15	1	8/27	火災防御	日置市総合防災火災合同訓練	0:35
16	1	8/31	救助	鹿屋市文化会館集団災害事故対策訓練	0:40
17	1	9/2	救助	南さつま市防災訓練	0:35
18	1	9/2	情報収集・救助	南九州市防災訓練	0:25
19	1	9/3	リペリング降下訓練	鹿児島市消防局国際救助隊救助隊員降下訓練	1:25
20	1	9/19	搬送	鹿児島市消防局国際救助隊救助隊員輸送訓練	1:20
21	1	9/26	救助・情報収集	いちき串木野石油コンビナート等総合防災訓練	1:05
22	1	10/12	救助	指宿市開聞岳山岳救助合同訓練	1:05
23	1	10/25	搬送	国民保護共同実働訓練(鹿児島空港)	0:50
24	1	10/26	救助	始良市消防本部合同訓練	1:15
25	1	11/4	救助・情報収集	大規模地震に伴う総合防災訓練(いちき串木野市)	0:55
26	1	11/6	救助・情報収集	志布志市津波避難合同訓練	1:05
27	1	11/7	情報収集	志布志市石油コンビナート等総合防災訓練	0:50
27件 27回 31時間15分					

余 白